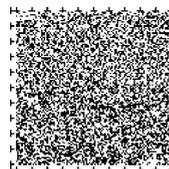


〔病院情報〕

病院紹介シリーズ②〇「作業療法部門」



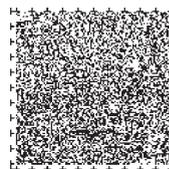
10月7日から9日までの3日間、「高位頸髄損傷の作業療法」をテーマに、センターが主催する作業療法士研修会が開催されました。当院の作業療法士は、日々の臨床業務に加え、この研修会の講師も務めております。研修会の受講者は全国各地から参加されます。一昔前は脊髄損傷関連の研修では、リハビリテーション専門の施設や病院からの参加者が大半でした。しかし最近是一般病院からの参加者が増加しているだけでなく、介護老人保健施設など高齢者を対象とした施設からの参加者も増えております。

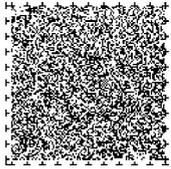
少子高齢化に加え、安全性の向上により交通事故やスポーツ外傷による若者の頸髄損傷者が減少する一方で、高齢かつ重症化した頸髄損傷者への対応が多くの施設で求められています。作業療法では、頸髄損傷の中でも高位の障害に関しては、学校の授業ではほとんど触れられることが無く、まして高齢者ともなりますと、必ずしも従来いわれてきた「残存筋の強化」がADL向上のために有効な手段にならないことも多く、臨床経験の浅い作業療法士にとってはどこからアプローチすれば良いのか判断することが困難になることもしばしばです。学校で習わなかった、教科書には載っていない対応が求められることにより、参加者の所属施設も変化していると考えられます。

我々は、損傷部位が高位になればなるほど身体を周囲の環境に柔軟に再適応させていくことが重要であると考えています。たとえば、食事動作一つをとっても、残されたわずかな筋力を強化して姿勢を崩しながらガチガチに腕を上げるのではなく、少しでも安心して腕を挙げられるように姿勢の安定性を優先することなどが、腕の円滑な運動を引き出すだけでなく他の動作の獲得にもつながると考えています。しかしこのような姿勢の見方や上肢の動かし方などは臨床での経験によって伝えられる要素の強い

ものです。臨床を通して培った、教科書には載っていない部分を他の作業療法士に伝えていくことも一つの使命だと感じています。

受講者からは、頸髄損傷の他に高次脳機能障害や脳卒中の上肢機能などに関する研修会の要望も寄せられています。作業療法を取り巻く状況を考慮しながら、価値ある研修会を継続できれば幸いです。





〔研究所情報〕

第36回国際福祉機器展 (H.C.R.2009) への出展報告

研究所・感覚機能系障害研究部 感覚認知障害研究室 神作憲司

2009年9月29日(火)から10月1日(木)までの3日間、東京ビッグサイト(有明)にて、第36回国際福祉機器展(H.C.R.2009)が開催されました。入場者数は例年より若干少なめであったようですが、それでも3日間の累計来場者は107,911名を数えたそうです。今年の研究所のブースは東6ホールの少し奥まった一角に配置されていたものの、一般の方、当事者の方、リハビリ・福祉関連の方、メディア関連の方など、数多くの方に立ち寄っていただき、用意していたパンフレット類も4,000部を超えて配布することが出来ました。

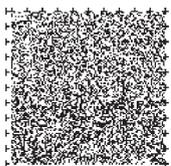
研究所からのH.C.R.への出展は、今年で15回目の節目を迎えました。会期初日終了後に開催された交流会では、主催者の保健福祉広報協会より15回連続での出展を表彰され、岩谷総長への感謝状贈呈も執り行われました(写真)。また、今年の研究所のブースにも、「国リハとH.C.R.15年」のコーナーを設けて、これまでの出展テーマの紹介や過去のパンフレットの展示などを行いました(写真)。14年前に出展したPC9801上のコミュニケーションソフトやモールスキーボードもしっかりと動き、透明文字盤を用いた最新のコミュニケーション支援ソフトの実演とともに好評でした。

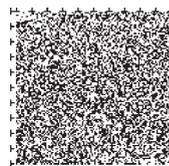
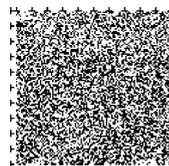
今年の研究所展示のテーマは、『脳・自立する力ー神経科学が拓げる福祉機器の可能性』とさせていただきました。「神経科学」は、近年の急速な発展に伴い、それまでの基礎科学の側面だけでなく応用科学の側面を持つにいたっています。この神経科学が、リハビリテーションや福祉の分野へと展開し、障害のある方の自立支援や社会参加へと着実に貢献していくことを期待してのテーマ設定です。今回の

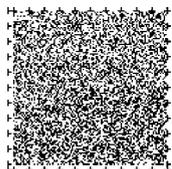
展示では特に、研究所の最近の成果のなかから神経科学に関連したものを、「脳波で操作：ブレインマシン・インターフェイス(感覚機能系障害研究部)」、「運動機能補助からニューロリハビリテーションへ(運動機能系障害研究部)」、「認知機能の拡張に向けて(障害工学研究部・福祉機器開発部)」の3つのコーナーでご紹介しました(写真)。

運動機能系障害研究部の歩行補助訓練器が目を引き、多くの方が「これは何ですか?」とブースに来てくださいました。また、感覚機能系障害研究部の脳波を使った環境制御システム(BMI-ECS)の実演に感心する方もいれば、障害工学研究部・福祉機器開発部のPDAや携帯電話も好評で、実際に手に取る姿が多くみられました。一般の方には少々専門的すぎるテーマ設定ではと危惧しましたが、多くの方に興味をもってご覧いただくことが出来ました。展示に関連して、感覚機能系障害研究部から「BMI-ECSの紹介」、「脳波で操作する上肢アシストスーツ」、運動機能系障害研究部から「脊髄損傷者の歩行回復を目指して」と題したDVDを放映し、軽快な音楽の助けもあってか、多くの方が足を止めて見入っていました。

展示物を目にした方からは「商品化は?」といった声もいただき、こうした福祉機器へのニーズや研究に対する期待を実感することも出来ました。束の間ではありましたが、多くの方の話を伺うことも楽しみながら会期を終えることが出来ました。最後になりましたが、今回の出展に御協力くださった方や実際にブースに足を運んでくださった方など多くの方々に御協力をいただきましたことを深く御礼申し上げます。







〔研究所情報〕

研究所オープンハウスを開催します

当研究所では医学、工学、社会科学、心理学と広範囲の分野から障害のある方の医療・福祉の向上を目指しています。これを目的として当研究所で開発した支援技術、福祉機器を多くの皆さんに知っていただくためのオープンハウスを開催いたします。

当日は、開発した機器の見学や体験をすることができ、また、研究担当者との自由な意見交換などが行えます。

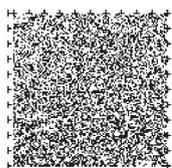
ぜひこの機会に、障害のある方の自立支援や社会参加を可能とするための最先端の研究に接してみてください。

- 日時 平成21年12月11日（金）（10：00～16：00）
- ところ 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- 内容 研究所の各部が進めている研究について、パネル展示や開発・活用機器の紹介
- 参加費 無料

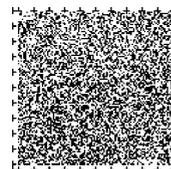
● 展示内容

<p>①「リハとは自立へのカウントダウン」 さがそう豊かに生きる選択肢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行動作の再獲得 ・膝関節疾患の保存療法 ・脊髄損傷後の再生医療 ・褥創予防 <p style="text-align: right;">運動機能系障害研究部</p>	<p>⑤「人・生活・もの ユーザーの思いを支える」 福祉機器の開発と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症のある人の福祉機器展示館 ・視覚障害者向け6点入力式メモ装置 ・電動車いすシミュレータ ・文字保存機能付き透明文字盤システム ・携帯電話を用いた発達障害者の自発行動支援 ・義肢装具・座位保持装置の試験評価 <p style="text-align: right;">福祉機器開発部</p>
<p>②「見る・聞く・触る」 感覚障害を最先端技術で科学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盲聾者の指文字を読む時の脳活動 ・高次脳機能障害の評価方法作成に関する検討 ・脳波からの情報による生活環境制御システム ・近赤外分光法による聴覚性言語機能の評価 <p style="text-align: right;">感覚機能系障害研究部</p>	<p>⑥「"コミュニティカ"を高める、 安心して暮らせる制度を作る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子図書による情報支援 ・きょうだい支援 ・高次脳障害者の就労を支える実践の共同体 ・精神障害を持つ人との就労支援 ・ふれあいを通じた地域生活づくり ・障害者・高齢者が参加する地域防災活動 ・義肢・装具・座位保持装置の製作にかかる費用 <p style="text-align: right;">障害福祉研究部</p>
<p>③「ナノ・ロボット・ゲノム」 障害者の夢をかなえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉機器用生体インターフェースの研究 ・網膜の変性と再生に関する研究 ・認知障害者の日常生活・就労支援機器の開発 ・高機能な歩行補助機器の開発 <p style="text-align: right;">障害工学研究部</p>	<p>⑦「発達障害の理解と共生のために」 すべての人に理解されることを目指して 発達障害があっても、誇りを持って生きることができるよう本人、家族の方、発達障害を知りたい方、発達障害に関わる方(支援者)に対して、発達障害に関する信頼のおける情報をwebサイト等を通してわかりやすく提供します。</p> <p style="text-align: right;">発達障害情報センター</p>
<p>④「義肢装具士の視点から 臨床と研究を融合し より良い義肢装具の普及を目指す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋電電動義手の普及のために ・より質の高い義肢装具へ向けて <p style="text-align: right;">補装具製作部</p>	

詳しくは、ホームページ<http://www.rehab.go.jp/ri/event/2009openhouse.htm>をご覧ください。



〔学院情報〕



学院学校説明会に227名が参加

学院事務室

当学院では例年、入試等に関する問い合わせが多くなる時期にあわせ、学校説明会を行っています。今年度は以下の日時・場所で開催しました。

第1回 9月26日（土）13：00～東京都港区
虎ノ門

第2回 10月13日（火）13：00～当学院

第1回説明会は、当学院初の試みとして東京都内の会場を借りて開催しました。どの程度の人数の方が参加してくださるのだろうかという主催側の不安をよそに、99名の参加者に加えて保護者の方も何名かお見えになり、途中からは、座席が足りなくなるのではと心配するほどでした。会場が一部屋のみだったため、学院長挨拶及び全体説明のあと、同じ場所で引き続き5学科それぞれについての説明を15分ずつ行いました。そのため、参加者には自分の志望学科でない学科の説明も聞いていただくこととなりましたが、終了後のアンケートでは「ほかの学科のことも知ることができてよかった」との意見もみられました。

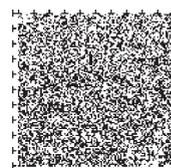
その後の各学科に分かれての質問・相談コーナーでは学生生活や卒業後の就職状況などについて、たくさんの方が質問がだされ、活発なやりとりが交わされました。会場の場所が少しわかりにくかったことや会場の広さなど、いくつか課題は残りましたが、お

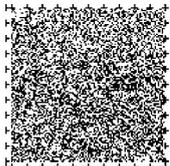
おむね成功裡に終わったといえるでしょう。

第2回目は昨年を大きく上回る128名の参加者を迎え、例年どおり学院で行いました。まず講堂で中島学院長の挨拶と全体説明を行いました。その後の質疑応答も含めて一時間ほどの時間でしたが、参加者はメモをとるなどしながら大変熱心に耳を傾けていました。この後、各学科に分かれて、教官から学科の概要、就職状況等について説明を行うとともに、各教室・実習室などを案内し、午後4時過ぎには全ての学科の説明を終了しました。

参加された方は、第1回目、第2回目とも来春の大学等卒業予定者や社会人など様々で、合計227名でした。今年初めての試みとして参加者へのアンケートを行いました。「必要な情報を得ることができた」「学校の様子がわかってよかった」といった肯定的な意見のほか、「ホームページなどに書いてあることはわざわざ説明しなくてもよい」「説明が聞きにくい」など、説明会の運営について今後の検討が必要となるような意見もいただきました。各学科別参加者数の内訳は、次の表のとおりです。

来春、1月に予定されている入学試験時には、リハビリテーション分野における先駆的指導的専門職員を目指す、優秀で、かつ熱意のある受験生が数多く応募されることを期待しています。





学科別学校説明会等参加状況

学 科 名	参 加 者 数				
	9月26日	10月13日	合 計	オープン キャンパス	総 合 計
言語聴覚学科	55人	56人	111人	94人	205人
義肢装具学科	32人	45人	77人	72人	149人
視覚障害学科	5人	13人	18人	6人	24人
手話通訳学科	7人	13人	20人	17人	37人
リハビリテーション体育学科	0人	1人	1人	6人	7人
合 計	99人	128人	227人	195人	422人

